

### 【背景】

高齢心疾患患者の運動負荷設定では、運動負荷試験施行困難な例もあり、現状として心臓リハビリテーション(心リハ)時の評価を基に移動レベルの設定を行うこともある。

### 【目的】

体重支持指数(WBI)を用いて、車椅子・歩行器レベル間のカットオフ値を算出し、運動負荷試験困難例の移動レベル変更においてWBIの有用性を検討する。

### 【対象】

平成27年10月～平成28年6月までに入院した患者26名。男性6名、女性20名、平均年齢 $85 \pm 4.74$ 歳。

### 【方法】

血行動態や呼吸状態、自覚症状に問題なく100m以上連続して移動できるか否かで車椅子レベルと歩行器レベルに分類した。計測はハンドヘルドダイナモメーター(HHD)を用い、得られた値からWBIを算出し、受信者動作特性曲線(ROC曲線)にてカットオフ値を求めた。

### 【結果】

車椅子・歩行器レベル間のカットオフ値は60.2 (AUC: 0.87)であった。

### 【考察・結語】

今回算出したWBIのカットオフ値は信頼性の高い数値が得られ、客観的指標となる可能性が示唆された。従来の評価に加えWBIを用いることで、事前に運動機能の評価ができ、より安全な心臓リハビリテーションが提供できるのではないかと考えられる。